川村学園女子大学研究紀要　第 28 巻　第 1 号　33 頁 – 46 頁　2017 年

映画を利用したリスニングの授業に関する一考察

倉　林　直　子*

Using Films to Improve Learners' English Listening Skills

Naoko KURABAYASHI

要　　旨

グローバル化が進み，英語の重要性が増す中で，日本の英語教育ではコミュニケーションに特化した能力育成に重点が置かれている。本稿では，コミュニケーションにおいて重要でありながら，依然として学習者の苦手意識が強いとされるリスニング能力の向上を目的とした授業，特に映画を使用した授業を考察する。英語教育で映画を利用することは，1）学生の興味の持続，2）実用的な英語学習，3）異文化，国際理解の促進という 3 点において非常に有効であると考えられる。また，大意の把握，具体的内容の理解，そして細部までの正確な理解を目的としたディクテーションという段階を踏んだ「段階指導型モデル」は，映画英語教育の歴史の初期段階で一般的だった「ディクテーション型モデル」に比べて，映画教育の利点を最大限に活用するものである。これらの考察をもとに，オーセンティックな英語を学び，アメリカ文化の理解に役立つ，映画『キューティ・ブロンド』を利用したリスニングの授業を提案する。

キーワード：リスニング，教材研究（映画），英語教育，異文化理解，コミュニケーション

1．はじめに

グローバル化が進んだボーダレスな社会で英語が重要な役割を果たす現状に直面し，日本ではコミュニケーションに特化した能力育成に重点を置いた教育が行われている。中学校，高等学校の学習指導要領では，外国語科の目標として，言語，異文化理解と同時にコミュニケーション能力の育成が明記され，「実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」の養成が重視されている（文部科学省，2008）。これは大学入試にも反映され，大学入試センター試験だけでなく，多くの大学の英語試験においてリスニングが課されてい

*講師　アメリカ史・日米関係史

る。さらに，上智大学と公益財団法人日本英語検定協会によって開発され，「聞く」「話す」「読む」「書く」という 4 技能を測定するテストアカデミック英語能力判定試験（Test of English for Academic Purposes: TEAP）を入試に採用する大学も増えている[1]。

このような状況において，大学教育でもコミュニケーション能力に特化した英語の授業が求められている。本稿では，コミュニケーションにおいて重要でありながら，依然として学習者の苦手意識が強いとされるリスニングに焦点を当てた授業について考察する。インターネットが普及した現在では，リスニング能力向上のためにさまざまな教材を利用することができるが，ここでは映画による英語教育を取り上げる。コミュニケーションは英語能力が高いだけでは図れない。そこには相手の文化や言語を理解しようとする態度も必要となる。映画は，リスニングというスキル向上のみならず，そこで扱われている文化に対する関心を持たせるという意味で，教材として有用である。本稿では，まず，先行研究を用い，英語教育において映画がどのように扱われてきたのかをたどり，映画を教材で使うことにどのような利点があるのかを考察する。また，リスニング能力向上に有用な指導法モデルを検討する。それらの考察を元に，映画『キューティ・ブロンド』を題材とした授業の一例を提案する。

2. 映画英語教育の利点

映画を英語教育に利用することへの有効性は多くの先行研究で論じられてきた。例えば，Edasawa et al.（1989）は，映画使用の利点として 1）現実に近い場面を教室内に再現できる，2）学習者の動機付けに効果がある，3）音声だけでなく，映像により多くの情報を与えることができる，4）非言語コミュニケーションの要素を効果的に指導できる，5）ナチュラルスピードで話されるオーセンティックな英語に触れさせることが可能であるという 5 点を，また，映画を利用した英語教科書を作成した穐本（2013）は，1）オーセンティック教材として成立する，2）学習者のモチベーションを高めることが可能である，3）視覚的に訴える要素が大きいため，必ずしも英語力のみに依存する必要がない，4）社会問題や時事問題，異文化理解など文化的側面を取り扱うことが可能となる，5）言語の 4 技能に加え，文法や語彙などへの応用が可能であるという 5 点を挙げている。これまでの先行研究を踏まえ，本節では，映画を素材とした教材を用いる利点として，特に 3 点について詳しく論じる。

2.1 学習者の集中力と興味の持続

まず，視覚情報やストーリー性を持つ映画は，学習者の集中力を保ち，興味を持続させると

いう効果がある。これは，1980 年代から外国人研究者によって指摘されてきた点である。Ur（1984）は視覚刺激の集中力の持続に対する効果を，また，Stempleski and Tomalin（1990）も視聴覚教材が学習者の興味を引き付けることを指摘している。一方，多くの日本人研究者もこの点を認めている。例えば，近藤（2015）は「映画は学習者の集中力の持続と興味の喚起及び持続に有効だといえる」ことを，また，穐本（2013）は，実際に言語が使用されている場面を視聴することにより学習者のモチベーションが高まることを指摘している。さらに，菊池（2006）は，英語を聞き取れない，あるいは話せない学生が多い理由に，学生の「リスニング意欲」の欠如があるとし，これを改善するための授業での映画の活用を提案している。IT 機器が発達し，現代の学生にとっては写真や映像を通じて情報を得ることが当たり前のこととなっている。また，10 代の学習者は大人に比べ，容易に退屈して集中力を欠きやすいとの研究もある（近藤，2015）。その現状を踏まえ，学生の興味を持続させるための工夫のひとつとして，効果的な視覚教材の利用が教員に求められているのである。これまで筆者も英語のリスニングの授業に映画やニュースなどの視覚教材を取り入れてきたが，CD を中心に進める授業よりも，映像を利用した授業の方が，学生の授業における集中力や関心，また授業アンケートでの評価は高いという印象を得ている。

2.2　オーセンティックな教材としての映画

次に多くの研究で指摘されているのは，オーセンティックな英語（英語圏の実際場面において英語を母国語として話す人の英語）を提供する教材としての映画の有効性である。映画は「教員が教室で提供できる最もオーセンティックな教材のひとつ」である（Edasawa et al, 1989）。現在，リスニング能力向上を目指す教材は多く出版されているが，学習用の音声 CD での英語はネイティブスピーカーの話す速度より遅く，また，発音に訛りがなく非常にわかりやすいものであることが多い。筆者は，授業でニュース映像を扱った教科書を利用しているが，実際のニュースでは聞き取れない部分も，学習用 CD では簡単に聞き取れる学生が多いと感じている。ネイティブスピーカーの英語で自然に起こる音の連結，脱落や同化が学習用 CD の音声では起こりにくいのである。語彙や構文を覚える上で，きれいな発音の英語を聞くことには意味があると思うが，そのような英語だけに慣れていると実際に世界に出た際に聞き取りに困難を感じることもあるのではないだろうか。

他方，映画で話される英語はスピードや発音ともに，ネイティブスピーカーが実際に話すものに近い。スクリプトに沿った映画での英語は厳密な意味でのオーセンティックなものとは言えないかもしれないが，学習用に作られた音声に比べてはるかに実用的なものであることは確

かである。また，間違いが大量に含まれる真にオーセンティックなものよりも，ある程度整理されたオーセンティックに近いスピーチからリスニングを学ぶことが効果的だと主張する研究者もいる（Ur，1984）。さらに，さまざまな話者が登場する映画で英語を学ぶことによって多様なアクセントや発話スピードを身に付けることは，実用的なリスニング力を伸ばすうえで非常に重要であるともいえる（近藤，2015）。

そのようなネイティブスピーカーが話すものに近い英語を聞き取ることは，学習者にとって困難を伴うものになると考えられるが，映画には音声だけでなく映像が含まれるため，話者のジェスチャー，表情，場面など言語外の視覚情報が，音声のみを聞き取るよりもはるかに助けになるというのも映画を英語教育に取り入れる利点であろう（中込，2005）。

2016 年 5 月に TOEIC が Listening & Reading Test を変更し，「よりオーセンティックな出題形式」を採用したように，現在は教科書で学ぶ英語ではなく，より実用的な英語の習得が必要とされている[2]。そのような状況で，オーセンティックな英語を提供する映画の英語教育での活用がこれからますます求められていくと思われる。

2.3　異文化理解，国際理解

さらに，映画は英語のスキル向上だけでなく，他国の文化や歴史の学習にも効果的であるといえる。中込（2005）は，映画の利点として「社会言語的に実際の文化を疑似体験することができる」ことを挙げている。実践的なコミュニケーション能力向上を目指した外国語の学習には，その言語そのものへの理解と同時に，その言語の背景にある文化に対する理解を深めることが重要である（文部科学省，2008）。しかし，現行の映画英語教育では言語的側面に比べ，文化的側面が軽視されているといえる。ここ 10 年ほどで日本の教科書会社から出版された，映画を扱った教科書約 50 点を検討した穐本（2013）によると，ランダムに抽出した 20 点の教科書のうち，リスニングスキルを扱った教科書は 17 点だったのに対し，文化を扱っている教科書はひとつもなかったという。また，映画英語教育を包括的に研究した角山（2008）も，映画を教材として使用する授業の取り組みに関する実践報告や先行研究では，文化的側面の指導について触れていても，主眼は英語スキルの向上に置かれていると指摘している。

しかし，グローバル化が進み，多くの外国人と接する機会が多くなった現在，英語の授業は単なる言語習得を促すものだけでなく，文化の多様性や，異文化への関心を深めるものでなくてはならない。外国の文化について知ることは幅広い国際的視野を身につけることにつながるのである。オーセンティックな英語を学び，英語圏特有の文化や社会問題を理解する手段のひとつとしてハリウッド映画をはじめとする英語圏の映画は有効であろう。また，外国を知るこ

とによって自国の文化や歴史を理解することも重要であるため，教員は外国文化の紹介だけでなく，日本との比較の視点を常に持ち，授業に臨む必要があると思われる。

以上に述べたように，英語教育で映画を利用することは，1）学生の興味の持続，2）実用的な英語学習，3）異文化，国際理解の促進という 3 点において，非常に有効であると考えられる。水澤（2015）が指摘するように，「映画は英語学習者にとって英語コミュニケーションを高める非常に魅力的で有効な媒体」なのである。映画英語教育はこれらの利点を最大限に活用するものでなくてはならない。

3. 映画を活用した指導モデル

一般的にリスニング指導には，これから聞く言語材料に関して必要な背景知識と語彙を活性化する学習である Pre-listening tasks，聞くこと自体の活動である Listening tasks，そして聞き取った言語材料や情報を自分のものにし，今後に利用するための活動である Post-listening tasks の 3 段階が必要とされる。これは映像教材を活用したものにもそのまま当てはまり，Pre-viewing Activity，Viewing Activity，Post-viewing Activity に分類される。リスニングの授業で映画を活用し，このような段階を踏んだ指導法にはどのようなものがあるのだろうか。ここでは，これまでの指導法を 2 つのモデルに分けて実証実験を行った角山（2008）の研究を紹介する。

3.1 ディクテーション型モデル

映画英語教育の歴史の初期段階で一般的だった指導法は，ディクテーションを中心としたものであり，角山（2008）はこれを「ディクテーション型モデル」と名付けた。構成はまず，Pre-viewing Activity の段階で，教員は作品紹介と重要語彙を提示する。Viewing Activity の第一段階では，学生は映画を 10 ～ 15 分日本語字幕付きで視聴し，次の段階でその視聴した中で主要な一場面について台詞のスクリプトが与えられ，穴埋め，およびディクテーションを行い，最後の Post-viewing Activity で，語彙や構文などに関する解説を聞き，理解を深めるという流れになっている。

前述のように，この指導法は初期段階で一般的なものであったが，今では総合的なリスニング能力の向上という点では不十分なことが指摘されている。それは，この指導法での核となっているディクテーションの効果が疑問視されているからである。この指導法でのディクテーションの主要目的は，実際の英語表現を正確に聞き取る音声認識にあり，内容理解力の向上ではない。補助手段としてディクテーションが有効だという研究者もいるが，ディクテーション

と総合的なリスニング能力との相関は十分解明されていないのである。ある研究では，学習者が単語を書きとっている間は内容を理解していないという結論が出ている。現在の英語教育で求められているリスニング能力は，単語の正確な聞き取りではなく，まとまりのある英語や，内容の概要，要点の聞き取りである（文部科学省，2008）。また，「ディクテーション型モデル」では日本語字幕の活用が大前提のため，英語による内容理解ができているのかどうか判断することも難しい。さらに，学習ではなく娯楽に流れてしまいやすいという問題点を抱えた映画（Edasawa et al，1989）を日本語字幕で視聴することには危険もある。このような点を考慮すると，ディクテーションのみに重きを置いた指導では不十分だといえるだろう。

3.2　段階指導型モデル

一方，角山（2008）が提案している２つ目の指導法モデルは「段階指導型モデル」である。Pre-viewing Activity で作品紹介や語彙を提示するという点は「ディクテーション型モデル」と同じだが，Viewing Activity には大きな違いがある。「段階指導型モデル」では，日本語字幕で全体を視聴させるのではなく，３～５分の学習目的に合致した場面のみを字幕なしで繰り返し見せる。その際，第１段階では大意に関する質問を，第２段階では具体的な内容に関する質問を提示し，視聴した後に解答を確認する。そして，第３段階で部分ディクテーションを行うが，「ディクテーション型モデル」とは異なり，ここでは正しい単語を入れることが目的なのではなく，細部までの正確な理解を目的としている。「段階指導型モデル」でのディクテーションは，大意の把握から具体的内容の理解という前の２つの段階の延長上にあるものと捉えられているのだ。したがって，最後の Post-viewing Activity では，語彙や構文に関する解説だけでなく，英語字幕付き視聴による内容確認も行う必要がある。このような活動により，学習事項の定着が図られた後は，対話作成やプレゼンテーションといった，リスニング以外の技能の向上を目指した発展的活動を行うことが望ましいとされる。

この指導法は「ディクテーション型モデル」と異なり，日本語字幕が介在しないため，英語による内容理解が図れるという点で有効だと考えられる。角山も，この２つのモデルを比較し，実証実験を行った結果，「段階指導型モデル」の方が映画を活用する上で非常に優れたモデルであると結論付けている。したがって，次節以降の『キューティ・ブロンド』を使ったリスニングの授業も「段階指導型モデル」に沿って構築していく。しかし，このモデルは，リスニング能力向上に特化したものであるため，第２節３項で論じた異文化理解を学生に促すという点では不十分である。したがって，『キューティ・ブロンド』を教材とした授業案の作成の際は，この点を考慮に入れる必要がある。

4.『キューティ・ブロンド』を利用した英語授業

本節以降は，これまでの先行研究に基づく議論をもとに，言語スキルの向上と異文化理解を両立する授業のための教材として『キューティ・ブロンド』を取り上げ，「段階指導型モデル」をベースにした指導案を提案したい。

『キューティ・ブロンド』は 2001 年に公開されたアメリカ映画である。カリフォルニアの高級住宅地に住み，ロサンゼルス市立大学（架空の大学）でファッションを先行する主人公のエルは，政治家を目指す恋人ワーナーに「上院議員を目指すなら，マリリン（・モンロー）のようなブロンド女性ではなくジャクリーン（・ケネディ）のようなブルネット（黒色から褐色の髪の色）の女性が妻としてふさわしい」と言われ，振られてしまう。しかし，エルはめげずに，ワーナーを追いかけて名門ハーバード・ロースクールを目指し，ついに合格通知を手にする。憧れのハーバードでエルは数々の困難に直面するが，持ち前の明るさを武器に乗り越えていく。この映画は，アメリカで人気となり，2003年には映画の続編が，また，2007年にはミュージカル化もされた。どんな苦境に立たされても，どこまでもポジティブなエルの姿に前向きになれるコメディ映画である。学生生活を扱っていることもあり，大学生には身近な作品といえるだろう。

4.1　言語的側面

『キューティ・ブロンド』で使われている英語は，第 2 節 2 項で論じたようなオーセンティックな英語に当てはまると考えられる。ロサンゼルス市立大学やハーバード大学，エルがインターンとして勤める法律事務所，また，その法律事務所が扱う裁判での会話がほとんどであり，そのスピードは日本人にはかなり早く感じられると思われる[3]。しかし，ネイティブスピーカーの話すナチュラルスピードの英語に慣れることは，実用的なリスニング能力を伸ばすうえで非常に重要である。また，登場人物が多く，性別，年齢，人種，職業もさまざまな話者による会話が提供されており，多様なアクセントや発話スピード，また，口語表現を学ぶにもよい作品だといえる。

さらに，『キューティ・ブロンド』では，幅広い分野の英語に触れることができる。ロサンゼルス市立大学とハーバード大学での生活では学生生活に必要な語句や表現を，また，エルがハーバード大学に入学するまでの過程では，留学準備に必要とされるような用語を学ぶことができる。さらに，政治家を目指すワーナーとエルの会話には政治分野の単語が，法律事務所のインターンの場面では法律用語やビジネス用語が多用されている。このような語句は日常生

活で使用することができる一方，TOEIC 学習に役立つとも考えられる。現在，多くの大学で TOEIC のスコアを向上させるための授業が行われている。問題集を繰り返し解くというのが，TOEIC 学習の王道ではあるが，学んだ語句が実際どのような場面で使われるのかを知るために TOEIC の授業でも映画を活用することを考えてもよいのではないだろうか。

4.2 文化的側面

第 2 節 3 項で論じたように，映画は異文化理解を促す利点があり，教員もその点を考慮して教材を選ぶ必要がある。アメリカでの大学生活を扱った『キューティ・ブロンド』は，学生のアメリカ文化の理解を助けるものとなるだろう。本作品でポイントとなるのは 3 点ある。まず，題名にもなっている『キューティ・ブロンド』（原題は Legally Blonde），また，ブロンド髪のせいで恋人に振られるエルの姿を通し，アメリカ社会における容姿に対する関心を説明することができる。アメリカにおいてブロンド髪は，マリリン・モンローによるイメージが強く，「美人で優しいが賢くない」というステレオタイプがある。エルはブロンド髪のせいでワーナーに振られるだけでなく，ハーバードでは仲間外れにされ，法律事務所ではセクシャル・ハラスメントを受ける。一方，ジャクリーン・ケネディに象徴される「賢い」イメージのブルネット髪にも，「計算高く容姿はイマイチ」というマイナスのステレオタイプがある。ワーナーの新恋人ヴィヴィアンは，このブルネット髪の女性のステレオタイプを体現する登場人物である。実際，アメリカ社会では「ブロンドで青い目」がもてはやされ，ブルネットが差別されているのが現状であり，映画の中で繰り返される「ブロンドが差別されている」というエルの発言は，その現状を前提とした「逆差別」発言なのである（奥村他，2007）。ここから派生して，アメリカ社会における容姿重視の問題，あるいは差別問題を論じることも可能であろう。

さらに，本作品の多くを占めるロサンゼルス市立大学とハーバード大学での学生生活にもアメリカらしさが垣間見られる。講義であっても発言が求められる授業，課題を個人ではなくグループで解決するスタディ・グループ，大勢の学生が集まるパーティ，寮生活など，『キューティ・ブロンド』にはアメリカの大学生活を象徴する要素が多く含まれている。また，本作品でユーモラスに描かれているソロリティ（女子学生の社交クラブ）もアメリカならではの文化といえよう。教員は，これらの文化を学生に伝えるだけでなく，日本の学生生活との違いを彼らに考えさせることも重要だと思われる。

最後に，エルが法律事務所にインターンとして勤務する場面では，アメリカの学生生活だけでなく，ビジネスの世界を疑似体験することができる。また，エルが参加する裁判を通して，日本とは異なるアメリカの裁判制度の一端を垣間見ることもできる。陪審制度を日本の裁判員

制度と比較することも可能である。ビジネス英語や法律用語が多いため，学生は聞き取りに苦労するかもしれない。したがって，教員の補足説明が大切になると思われる。

このように，『キューティ・ブロンド』にはアメリカの文化，社会に関する複数の側面が含まれている。しかも，いくつかの短い場面を見るだけで，その側面を知ることが可能である。本作品では，本項で論じたアメリカの文化的側面を示す場面がそれぞれ 3 分以内に収まる。学習者が集中して学習に取り組むことができるのは，3 分～ 5 分程度だと指摘されている（角山，2008）。短い場面で文化の一端を垣間見ることができる『キューティ・ブロンド』は，英語学習とアメリカ文化理解を両立させる作品のひとつであると考えられる。

4.3　場面の選定

本節以降では，『キューディ・ブロンド』から 1 場面を選び，第 3 節 2 項で紹介した段階指導型モデルに基づいて 90 分の授業案を作成する[4]。半期の授業 15 回のうち『キューティ・ブロンド』を 4 回の授業で取り上げ，以下の授業案はそのうちの 1 回とみなすという想定である。また，TOEIC 400 から 500 点の学生を対象とする。

洋画を活用した教材選択，指導手順などを体系的にまとめた小林（2003）は，授業で取り上げる場面の選定基準として，1）画像的，言語的に教育上適切なシーン，2）盛り上がりのある面白いシーン，3）聞き取りやすいシーン，4）対話の多いシーン，5）学習者が将来遭遇する可能性が高いシーン，6）日常生活で頻度の高い語彙項目や構文が使われているシーン，7）教えたい，あるいは，シラバス上，提示する時期として適切な言語材料が使われているシーンの 7 点を挙げている。

この基準に従い，本授業ではハーバードでの初日の授業で教室を追い出されたエルが，上級生であるエメットに出会い，授業のアドバイスを受けた後，ワーナーから現恋人であるヴィヴィアンを紹介されるという場面（28.50-31.40）を使用する。この場面には，教育上問題となるような画像や言語表現はみられない。また，エルの喜怒哀楽がはっきりしているので，面白く，かつ話の流れがわかりやすい。会話の速度は速めではあるが，使われている構文のほとんどは単純で，短い対話の連続のため，わかりやすく，聞き取る上で問題はないと思われる。また，学生同士の会話で，授業に関する語句や，使える口語表現が含まれているため，大学生が日常生活で使う表現を学ぶのに適しているだろう。

4.4　Pre-viewing Activity（15 分）

本授業案でも『段階指導型モデル』で行われる視聴前の作品紹介や語彙の説明を行うが，作

品紹介は，あらすじにとどまらず，アメリカ社会や文化の理解の助けとなるような情報を伝えることを心がけたい。この場面は「頭が悪い」とみなされるブロンドのエルと「賢い」とされるブルネットのヴィヴィアンがワーナーの元彼女と現彼女として初めて対面する，物語のひとつの要である。第4節2項で取り上げた容姿にまつわる問題，また，差別問題をアメリカ社会が抱える問題として詳しく説明することができるだろう。また，ワーナーとヴィヴィアンが通っていたプレップ・スクールの説明で，アメリカの教育制度に触れることもできる。その際，日本の教育制度と比較させると学生の関心がより増すかもしれない。

文化的側面の説明後，視聴する場面がどのような内容なのかを簡単に説明し，語彙を確認する。この段階で説明する語彙は本当に難解なもの（ここでは liability, preppy, biggie, hallucinated など）に限定し，なるべく学生に使われている単語を推測させるほうがよいと思われる。

4.5 Viewing Activity（45 分）

作品紹介や文化説明，また語彙の確認が終わったら，3段階に分けて視聴する。第1段階は大意に関する質問（資料1）を，第2段階は具体的な内容に関する質問（資料2）を事前にワークシートとして配り，その答えを考えながら視聴させる。今回，大意に関する質問は日本語で答えさせ，具体的な内容に関する質問は選択肢から解答を選ぶという形をとったが，学生の習熟度によっては，実際に英文を書いて答えるという形式にしてもかまわない。字幕なしで繰り返し視聴させ，すべての問題に答えるよう促し，最後に答え合わせをする。各解答に対する具体的な説明は第3段階のディクテーションの問題を終えた後にスクリプトをたどりながら行うのがよいだろう。

次に，本場面の一部分を穴埋め問題にしたディクテーション問題を解かせる（資料3）。第3節2項で述べたように，ここでのディクテーションは音声認識ではなく，内容の正確な理解を目的としているので，難易度が高い単語を抜く必要はない。それよりも第1段階，第2段階の問題に対する答えのカギとなる部分の単語や，Post-viewing Activity での語彙や構文の説明で活用できるような単語を書き入れさせるほうが学生にとって有益であると考えられる。この問題も学生ができるだけ答えを記入できるよう，数回視聴させ，辞書の積極的な利用を促すことが望ましい。

4.6 Post-viewing Activity（30 分）

ディクテーションの答え合わせを行った後は，語彙や構文の説明を行い，学習事項の定着を

図る。本場面には学生生活に関する単語や，基本的な熟語，さらには日常生活で使える文章が多く含まれている。これらの事項を説明した後，一度英語字幕で DVD を再び視聴させ，全体の内容を把握したかどうかを確認する。学生の習熟度によるが，なかなか内容が理解できない場合には，日本語字幕で視聴することを考えてもよい。しかし，あくまでも日本語字幕は内容理解の最終的な確認に使われるべきであり，「ディクテーション型モデル」のように，最初から日本語字幕で見せるということは原則避けるべきである。

Post-viewing Activity では，学習事項の定着のほかに，発展的活動を行うことが望ましいとされる。本場面での会話は一文一文が短いので，このうちの一部を使い，ペアになって対話の練習を行うとよい。例えば，スクリプトの “Wow. I’m really glad I met you.”から “Hi. Vivian Kensington.”までの対話は，難易度はそれほど高くないが，日常で使える表現が含まれており，繰り返し練習することが学生にとって有益だと思われる。さらに，学習した構文を使って自ら対話を作成し，発表するといったことも可能である（時間がない場合は宿題にして，翌週の授業で発表させるのもよい）。現在は，一方向的な授業ではなく，学生自身が活動し，参加する「アクティブ・ラーニング」型の授業が求められている。リスニングは「聞く」という特性から往々にして受け身の授業になりがちであるが，学生の能動的な活動を促すという点でも，これらの発展的活動を意識的に取り入れるべきであろう。

5. おわりに

本稿では，英語教育で映画を活用することの利点，また，映画を使った２つの指導モデルを論じ，その議論を踏まえて『キューティ・ブロンド』を使ったリスニング授業の一例を提案した。映画は学習者の集中力と興味を持続させると同時に，オーセンティックな英語を提供するという点で学習者にとっては非常に魅力的な教材となりうる。また，言語習得だけでなく，異文化理解に役立つという側面は，現在求められている幅広い国際的視野を身につけた人材育成に貢献するものとなるだろう。

現在，さまざまな映画が英語教材として利用されている。英語のスキルと異文化理解のどちらを重視するかは議論の余地があるだろうが，映画の利点を最大限活用するためにも，教員はその両方の側面を意識した授業を構築していく必要があるだろう。本稿で述べたように，『キューティ・ブロンド』は，言語と文化，両方の側面をうまく取り入れた授業を行うことができる作品だと考えられる。筆者は，この作品を大学の英語の授業で使用したことがあるが，実際に詳細なアンケート等をとって，その効果を実証することはしていない。事実，英語教育

での映画の利点は広く論じられているが，実証的にサポートする研究は十分でないとの指摘もある（近藤，2015）。今回提案した授業案は，映画の利点を分析した先行研究に基づき，構築した案である。この案をもとにした授業を実際に行い，学生のリスニング能力向上と，アメリカ文化理解，そして興味の持続に効果的かどうかを調査し，その結果の分析と考察を行うことが今後の課題である。

注

1　2016 年 6 月現在，TEAP を採用する大学は 59 にのぼる。日本英語検定協会，「TEAP 採用大学」，2016 年 6 月 23 日，〈https://www.eiken.or.jp/teap/group/list.html〉最終アクセス　2016 年 8 月 24 日.

2　「TOEIC Listening & Reading Test 出題形式一部変更について」，2016 年 1 月 12 日更新，〈http://www.toeic.or.jp/info/2015/i025.html〉最終アクセス，2016 年 9 月 12 日.

3　映画英語教育学会東日本支部による著書では，『キューティ・ブロンド』の英語の難易度は中級から上級となっている。映画英語教育学会東日本支部（2012）.『映画英語 授業デザイン集』，フォーインスクリーンプレイ事業部，p. 22.

4　『キューティ・ブロンド―特別編―』（2001）．フォックスホームエンターテイメントジャパン.

参考文献

穐本浩美（2013）.「映画を素材とした英語教科書の検討と可能性」,『言語文化学会論集』，第 41 号.

Edasawa, Yasuko, Takeuchi, Osamu, and Nishizaki, Kazuko (1989). “Use of Films in Listening Comprehension Practice,” *Language Laboratory*, no. 26.

角山照彦（2008）.『映画を教材とした英語教育に関する研究』，ふくろう出版.

菊池一彦（2006）.「英語リスニング意欲を高める英語リスニング指導の工夫」,『窓』，149 号 .

小林敏彦（2003）.「洋画を活用した英語授業のための 10 ステップ統合モデル」,『映画英語教育論』，フォーインスクリーンプレイ事業部.

近藤暁子（2015）.「映画を使用した日本人学習者対象のリスニング指導効果」,『映画英語教育研究』，20 号.

水澤祐美子（2015）.「英語リスニング能力向上のための映画教材の活用」，*Lingua*, no. 26.

文部科学省（2008）.『中学校学習指導要領解説　外国語編』，開隆館出版.

中込知子（2005）.「映画を取り入れた英語教育― Shadowing の発音に及ぼす効果―」,『玉川大学経営学部紀要』，第 5 号.

奥村みさ，スーザン・K. バートン，板倉厳一郎（2007）.『映画でわかるアメリカ文化入門』，松柏社.

Stempleski, Susan, and Tomalin, Barry (1990). *Video in Action: Recipes for Using Video in Language Teaching*. New York: Prentice Hall International.

Ur, Penny (1984). *Teaching Listening Comprehension*. Cambridge: Cambridge University Press.

付　記

【資料 1】

・映像を見て，次の各問に日本語で答えなさい。

1) Why is Elle angry?
2) What does Elle thank Emmett for?
3) What does Warner let Elle know about Vivian?

【資料 2】

・映像を見て，最も適切な解答を選びなさい。

1) What did Stromwell do to Emmett?
   a. She scolded him.
   b. She made him cry.
   c. She made him laugh.

2) What advice does Emmett give to Elle about Callahan's class?
   a. She has to listen to Callahan well.
   b. She has to get a seat in the front.
   c. She has to speak up.

3) What advice does Emmet give to Elle about Royalton's class?
   a. She has to get a seat in the back.
   b. She has to speak up.
   c. She has to read the footnotes.

4) Where did Warner and Vivian meet again?
   a. In prep school
   b. At the birthday party of Warner's grandmother
   c. In the club

【資料 3】

・映像を見て，空欄に単語を入れなさい。

Emmett: Don't worry, it gets better. Who else do you have?

Elle: I have Callahan, Royalton, and Levinthal.

Emmett: Let's see, (speak) up in Callahan's class. He really likes people that are opinionated. And in Royalton's class... try to get a (seat) in the back. He spits when he talks about (products) liability. And for Levinthal, make (sure) you read the footnotes. That's where he gets a lot of his exam questions.

Elle: Right. Wow. I'm really glad I met you. Are you a (third) year?

Warner: Hey, Elle.

Elle: Hi! Thanks for all your (help).

Emmet: Good luck.

Warner: So... (how) was your first class?

Elle: It was good, (except) for this horrible preppy girl...who (made) me look bad in front of the (professor). But no biggie. You're here now. So, how was your summer?

Warner: Good. It was good.

Elle: Did you do anything (exciting)?

Warner: (Have) you met Vivian?

Vivian: Hi. Vivian Kensington.

Elle: Do you know her?

Vivian: I'm his (fiancee).

Elle: I'm sorry. I just hallucinated. What?

Warner: She was my girlfriend in prep school. And, well, we got back together this summer... at my (grandmother's) birthday party.

Vivian: Warner told me all about you. You're (famous) at our club. But he didn't tell me you'd be here.

Warner: Pooh bear, I didn't know she would be here.

Elle: Excuse me.